

ヤリタナゴ *Tanakia lanceolata* (Temminck et Schlegel)

【選定理由】

県内の平野部において生息地が散見されるが、河川ならびに水路のコンクリート護岸化などの河川改修、産卵母貝の減少、外来魚による捕食・競争などにより、危機的状況にある。

【形態】

体長 10cm ほど。体は側扁するが、他のタナゴ類と比較すると体高が低く、細長い。1 対の口ひげがある。通常の色は銀白色で、背は青みを帯びた褐色。産卵期、雄は吻端に追星が現れ、体側は淡緑色、背側は暗色、頬と腹部に朱色やオレンジ色の婚姻色を現す。背鰭と臀鰭は、縁は黒色で細く縁取られ、その内側は幅広く赤く色付く。雌には婚姻色は出ないが、産卵管が伸びる。

【分布の概要】

【県内の分布】

豊川水系、矢作川水系、木曾川水系など。

【国内の分布】

本州、四国、九州。

【世界の分布】

日本、朝鮮半島。

【生息地の環境／生態的特性】

砂礫底の河川緩流域や水路、ワンド、ため池などに生息する。雑食性で、付着藻類や小型の底生動物などを食べる。産卵期は 4～6 月で、雄がマツカサガイなどの淡水産二枚貝類に雌を誘引し、雌は貝の出水管に産卵管を挿入し、外套腔内に産卵する。雄は入水管近くに放精する。

【現在の生息状況／減少の要因】

かつては県内に広く生息していたが、河川改修、圃場整備事業に伴う水路のコンクリート護岸化による緩流域ならびに水草の消失、ため池の埋め立て、産卵母貝となる淡水産二枚貝類の減少により危機的状況にある。また、オオクチバスやブルーギルなどの肉食性外来魚による捕食が深刻な影響を及ぼしているほか、タイリクバラタナゴによる生息環境ならびに産卵母貝をめぐる競争などにより、個体群衰退ならびに置き換わりが見られる。婚姻色の美しさから、飼育・観賞目的に採捕されることも多い。

【保全上の留意点】

淡水産二枚貝類の保全ならびに、緩流域や水草帯などの生息環境の保全が必要である。また、ヤリタナゴと同様に淡水産二枚貝類を産卵母貝とするタイリクバラタナゴをはじめとする外来のタナゴ類の放流防止、オオクチバスやブルーギルなどの肉食性外来魚の防除ならびに啓発を進めることが重要である。

【特記事項】

霞ヶ浦ではオオタナゴによる競争ならびに駆逐が問題となっている。オオタナゴは愛知県内ではまだ確認されていないが、侵入した場合、ヤリタナゴをはじめとする在来のタナゴ類への脅威となることから、今後の動向に注視する必要がある。

【関連文献】

福原修一, 2000. 貝に卵を産む魚, 79pp. トンボ出版, 大阪.

細谷和海, 2013. コイ科. 中坊徹次 (編), 日本産魚類検索 全種の同定 第三版, pp.308-327, 1813-1819. 東海大学出版会, 神奈川.

北村淳一, 2008. タナゴ亜科魚類：現状と保全. シリーズ・日本の希少魚類の現状と課題. 魚類学雑誌, 55(2): 139-144.

永井 貞, 2014. ヤリタナゴ. 岡崎市の絶滅のおそれのある野生生物 レッドデータブックおかげさき 2014, p.216. 岡崎市.

(鳥居亮一)